

# 広報むなかた むなかた タウンプレス

宗像市公式ホームページ  
<http://www.city.munakata.lg.jp/>  
宗像市公式フェイスブック  
<https://www.facebook.com/munakata.city>  
メールアドレス  
koho@city.munakata.fukuoka.jp

発行: 宗像市  
〒811-3492 福岡県宗像市東郷1-1-1  
代表: 総務課  
☎0940-36-1121 FAX 0940-37-1242  
編集: 秘書政策課広報報道担当  
☎0940-36-1055 FAX 0940-37-1242

毎月1日・15日発行 平成27年11月15日号

知っていますか？ 子ども基本条例	4
平成27年度 全国学力・学習状況調査宗像市立小・中学校の結果	6
高めよう！ 子どもたちの自尊心	7



宗像市と八女市コラボ企画「九州オルレフェアin福岡」(11ページ)

文化財を記録する、「時間旅行ムナカタ」	3
公開録音を観覧しませんか、「ふるさとから世界遺産を！」	3
子どもを権利侵害から守る	5
あなたの恋愛大丈夫?!デートDV、「メッセージ」	10
サーバ型プリペイドカードを購入させるプリカ詐欺、「転ばぬ先の杖」	12
特定健診、受けてますか?、「健康むなかた21」	13

1~3	2~7	8~13	14
行政	学びの里	お知らせ	カレンダー

## 若い力が宗像の農業を盛り上げる

田畑は、食物を育むだけでなく、私たちの身近な生活環境の一部として、洪水防止、景観保全、大気浄化など、さまざまな役割を果たしています。しかし、宗像市では、全国的な傾向と同様に後継者不足による農業者の減少と高齢化が進んでいて、このままでは、農地を良好な状態で保つことが難しくなると予想されます。このような中、むなかた地域農業活性化機構では、次世代を担う若手農業者を育成するため、新規就農者研修を実施。この研修に参加し、正助ふるさと村の農地で栽培技術、加工品製造、販売方法を学ぶ2人を紹介します。

■問い合わせ先 ▽秘書政策課広報報道担当 ☎(36)1055 ▽農業振興課 ☎(36)0041



前職は会社員。転勤が多く、子どもに転校を繰り返させたくないという思いから、農業について、もともと農業に関心があったので、就農を決意しました。農業はどれだけ心を込めて育てたかで、成果物の出来が全然違う。さらに作物を作るだけじゃなく売れる仕組みも考えないといけない。全部自分で考え、実行するところが面白い。会社員とは違ったや

### 就農を当たり前の選択肢に — 美和大介さん(35歳)

りがいを感じますね。将来的には、障がいのある人の働くきっかけや若い人の雇用促進になるような事業ができたらと思っています。就農を考えるとときに当たり前に「農業」という選択肢が出てきて面白いと思うんです。今後、みなさんに農業に関心を持ってもらえるような活動を進めていきたいです。



ブロッコリーの葉に虫が付いていないかチェック

### たにいいブログ・フォト日記

広報紙15日号で毎月、市HP<http://www.city.munakata.lg.jp/>に掲載している市長ブログを紹介しています。

■問い合わせ先 秘書政策課秘書担当 ☎(36)0890



多くの関係者と共に訓練に取り組みました

9月12日、市内全指定避難所、市役所を中心に情報伝達訓練と避難訓練を実施しました。大島では、「午前8時58分ごろ、大島沖を震源地とする西山断層でマグニチュード7.3の地震が発生し、渡船ターミナルが崩壊し船舶の着岸ができないうちに、全島住民の、全島住民の避難指示が「たにいい」の想定のもと、船での住民輸送や救出など21項目にわたって訓練。併せて、地島からの負傷者の避難訓練も実施しました。

上自衛隊の輸送艦に乗り込んだり、海上保安部船舶に海上タクシーなどで数人ずつ乗せて脱出したというなど、本市にとって初めての大きな訓練は、多くの関係機関の見事な連携のもと成功に終わりました。島民をはじめ関係者のみなさんには、心から感謝します。市民の生命を守るため、有事のときには迅速に対応できるよう、今後も市民のみなさんと一体となって、訓練を続けていきたいと思えます。市民のみなさんの協力をお願いいたします。



大学では農学部を専攻し、サークルで田んぼを作っていました。卒業後は官公庁に就職しましたが、農業への夢を捨てきれず、30歳になるまでに何かチャレンジしたいと思い、研修に参加。農業の魅力は、アートや福祉、ITなどさまざまな分野と親和性があること。ITプログラマーである大学時代の友人とは、肥料などをパソコンで管理するなど、いつか一緒に仕事したいと話しています。地域農業の将来のためにも、若い人や農業と関わりがない人らに関心をもってほしい、連携すること

### 僕らと一緒に仕事しませんか — 竹下英臣さん(30歳)

で、農業の可能性を広げていけたらと思います。2人が作った野菜は正助ふるさと村のレストランで提供されたり、くりえいと内のむなかた物産市オアシスに出荷されたりしています。ぜひ、2人の活動を応援してください。また、むなかた地域農業活性化機構では、宗像地域(宗像市、福津市)で農業を始めたい人の就業実現を支援しています。\*詳細は、むなかた地域農業活性化機構<http://www.imai.jp/>で確認してください。

11月21日(土)、11月22日(日)には、JAむなかたが農業まつり「食」と「農」を通じて、地産地消を考えてみませんか。